

足立区立花畑小学校
校長 大塚 信明 様

足立区立花畑小学校 開かれた学校づくり協議会
会長 加藤 和男

令和5年度 学校関係者評価書

1 自己評価書全般について

本年度はコロナが5類に移行したことにより、人数や時間に制限なく運動会や展覧会、学校公開等を参観し、児童の活躍や教職員の取組等を見ることができた。

学校は、学力向上を中心として、「知・徳・体」のそれぞれにおいて教育活動の充実を図っており評価できる。今後も、児童の発達段階に応じて、それぞれの教育活動が滞りなく行われることを期待する。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待について」

【重点的な取組事項－1 学力向上】 達成度◎（達成）は妥当と評価する。

学力向上アクションプランに従って、ICTを活用した授業づくりやAIドリルでの反復学習、校内研究「思考力・判断力・表現力を育てる授業づくり」の実践など、学力向上のための様々な取組を行っている。特に、区の学力調査の結果は、目標値を通過した児童の割合が、今年度も昨年度に引き続いて高く、十分に評価できる。しかし、その一方で、平均正答率を見ると、正答率の高い児童の割合が約80%にとどまっている。通過率約90%に比べると、正答率は10%ほど低いことが分かる。正答率を向上させることが課題である。

今後も、保護者・地域による丸付けボランティア、新聞を活用した授業、朝学習や放課後補充教室の実施など、基礎学力の定着に向けての取組を確実に行うとともに、児童の思考力・表現力を高めたり協働的な活動を充実させたりするためのタブレット端末の活用についても全校で共有し実践してほしい。また、読書活動の充実にも注力することで、児童の学力向上につなげてほしい。

【重点的な取組事項－2 教師の指導力向上】 達成度○（おおむね達成）は妥当と評価する。

働き方改革などの取組により、時間的な制約があるなか、校内研究授業の取組や主任教諭による校内研修会や教科指導専門員による若手教員への授業観察や事後指導、全職員による足立スタンダードに則った授業展開の取組等、全職員が指導力の向上を図っていかうとしたことは評価に値する。研修時間の確保や研修の成果を学校全体に還元することで、さらに指導力の向上に努めてほしい。児童の大きな事故やいじめがなく、安心・安全に過ごせたことは、日頃から全教職員が子供たちの様子を把握し教育活動に活かしていることの表れである。また、豊かな心の醸成、健康な身体の成長、特別支援教育の推進についても、様々な取組を行うことにより、成果となって表れている。

【重点的な取組事項－3 児童の心身の育成の充実】 達成度△（達成までもう少し）は妥当と評価する。

特色ある取組の一つである「花畑ビューティフル・スクール運動」では、「居心地のよい学校づくり」を目指し、①挨拶運動②いじめ防止運動③みんなが輝く学校キャンペーン④SDGsに関連付けた取組を行うことができた。12月に行った「居心地のよい学校づくりアンケート」では、94%の児童が肯定的な回答をしている。また、「居心地のよい学校にするために何か取り組んでいますか。」の質問には、90%の児童が「はい。」と答えている。このことから、児童が主体性をもち、安心して学校生活を送っていることが分かる。体力向上については、外遊びは85%以上の児童ができています。しかし、投力や全身持久力、瞬発・跳躍力については、全学年全国平均を下回っている。低学年から継続的に行うことで、向上に努めてほしい。

3 その他

協議会としては、9月には、「子どもまつり」、11月には「親子行事（フラワーアレンジメント教室）」、「落語会（夜の部）」を開催し、地域に開かれた活動をすることができた。（7月に予定されていた足立パドラーズ主催の「プールでカヌー体験教室」は、熱中症警戒アラート発令のため中止。）「居心地のよい学校づくり」を目指し、児童から標語を応募し、横断幕にして南門付近に掲示した。来年度も継続して取り組んでいく。今後も保護者・地域・学校が連携を図り「人任せ」にしない指導を行うことにより、児童の心身の育成の充実を図っていく。